

## 苗場山山行報告

【山行日】2023年 7月 30(日) 曇り

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 3,100円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:廣瀬

飯野、大塚、小林、嶋田、野口、福島

【コースタイム】岩舟支所P4:00＝小赤沢登山

口 P6:55/7:15～坪場 9:30/9:40～山頂小屋

10:25/10:40～苗場山 10:45/10:55～湿原散

策～ベンチ 11:30/12:00～坪場 12:30/12:40

～小赤沢登山口 P14:30/14:45＝直売所

15:30/15:45＝岩舟支所P18:20



山行アンケートで苗場山に花の時に登りたいとリクエストがあり、花が豊富なこの時に計画した。いつものように小赤沢三合目登山口から登り、湿原を縦走するコースを歩くことにする。



岩舟支所を4:00に出発し、北関東道から関越道を進み塩沢石打ICで降り国道353号線を進む。津南町から国道405号線を進み、小赤沢集落から左に林道を進み小赤沢三合目登山口駐車場に着く。広い駐車場にはトイレも整備され、登山者にはとてもありがたい。支度を整えてトイレを済ませ、ストレッチを行ったら出発する。雑木林の中の緩やかな登りを進み、楓沢と赤石沢の間の尾根に取り付く。大木の中を木の根に注意しながらゆっくり登り、しばらく登ると四合目の水場に着く。

四合目から六合目までは樹林帯の中を緩やかに登るが、途中湿地帯をいくつか通過するので足元がぬかるんでいた。この先から岩交じりのザレた急坂を登るようになり、七合目で小休止する。狭い場所に大勢の登山者が休んでおり、我々も水分を補給し疲れた足を休める。ここからはさらに急な登りが続き、胸突き八丁と呼ばれる岩場の急登をクサリやロープを頼りに登って行く。浮石に気をつけながら慎重に登ると、やがて笹の間の緩やかな道を登るようになり、大湿原が広がる九合目の坪場に着く。広い木製のテラスで休憩し、冷たいプリンや菓子をいただき湿原の景色を楽しむ。



池塘が現れ、気持が良い木道を進むと、右手に和山からの道が合流する。しばらく登ると大きな岩がゴロゴロと連なる、湿った樹林帯を通過する。大きな岩の間を進むが、岩の下はドロドロの泥濘



で、落ちると靴が泥だらけになる。ようやく通過して樹林を抜けると、再び木道の気持が良い湿原を歩くようになる。直ぐに赤倉からの道と合流し、左折すると広大な湿原の中に木道がまっすぐのびて、実に気持ちが良い雲上のプロムナードを歩いて行く。湿原の先に苗場山自然体験交流センターが見え、交流センターに寄ってトイレを済ませる。ここからほんの少し北に進むと苗場山山頂で、平坦な場所に一等三角点と大きな山頂標柱が建っている。

記念写真を撮ったら山頂を後にし、湿原に戻って広いベンチにザックをデポし湿原散策に向かう。

湿原の中に付けられた赤湯への木道を進み、2068m地点で折り返す。広大な湿原には無数の池塘が点在し、池塘にはキンコウカの黄色い花が咲き誇っていた。2000mを越える山上に、これほど広大な湿原が存在すること自体、奇跡としか言いようがない。ガスが掛かったり晴れたりを繰り返しているが、ガスが晴れると一面にキンコウカの花が黄色く輝き素晴らしい。湿原の絶景とお花を楽しんだら折り返し、ベンチまで戻ってランチタイムとする。出掛ける時にはベンチには人は



居なかったが、戻ると大勢の登山者が昼食を食べていた。我々も北側のベンチに腰かけて、お湯を



沸かしてカップ麺やスープを作りランチをいただく。ランチが済んだら下山開始し、往路を戻って小赤沢登山口を目指す。広大な湿原の景色をゆっくり堪能しながら歩き、坪場で休憩して最後の景色を楽しみいっきに下っていく。途中、雨がパラパラと落ちてきたが、大した降りにはならず無事に登山口駐車場に下山した。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につき、十日町市の農産物直売所に寄って野菜やくだものをゲットする。我輩はトウモロコシとスイカを買ったが、どちらも甘く

とても美味しかった。見た目が良くないメロンを小林さんが購入したが、とても美味しくてもっと買えば良かったと後日言っていた。関越道も渋滞も無く順調に走り、予定通り岩舟支所に帰着した。